

## 第27回非開削技術講演会を 会場＋オンライン配信で開催しました



角川 順洋

KADOKAWA Yorihiro

(一社)日本非開削技術協会  
事務局長

2020年9月3日、日本非開削技術協会主催、日本推進技術協会後援による第27回非開削技術講演会を東京都江東区の「プロム東陽町」において、開催いたしました。今年のテーマは「環境にやさしい非開削技術」とし2テーマについてご講演をいただきました。

当日は、感染対策の観点から実際に会場に集まる入場人数を40名程度に制限し、講演の様子をオンライン配信する新しいスタイルの講演会を行いました。

講演会開催にあたり、JSTT技術委員会の宮武昌志委員長より「老朽化が進む設備を、環境問題に配慮しながら、適切なマネジメントが求められる」とご挨拶されました。

講演会は、日本下水道事業団ソリューション事業部次長の阿部千雅様、(株)奥村組リニューアル技術部工事所支援グループ長の山口治様にお願しました。

阿部様からは「SDGsと下水道～環境に貢献する下水道技術～」をテーマにご講演をいただきました。阿部様より「SDGsは世界中のすべての人々が幸せを得

られる仕組みを提案したもの。そして下水道設備が人間の最も基本的な生活、幸せに直結する」と紹介。さらに、非開削技術への環境効果についてもご紹介いただき、「開削工法と比較すると、路上工事規制最小限で済む非開削工法が渋滞抑制、交通車両の円滑な流れにより社会的貢献が高い技術である」とご紹介いただきました。

山口様からは、「下水道管渠AI損傷システムによる効率化技術」をテーマにご講演をいただきました。画像解析のAIを活用し、管渠の損傷を検出する手法について解説され、目視による損傷個所の見落としや、人による判定のばらつきを防ぐため、AIによる画像認識技術開発の内容をご紹介されました。またAIの構築にあたり、損傷の有無を判断する基準データ（これを教師データと解説）が必要で、調査を進めていく段階で、データが不足するケースに遭遇し、同じ作業の上下を反転動作などさまざまな行動パターンをAIに学習させたことを具体的にご紹介いただきました。

演題	講演者
SDGsと下水道 ～環境に貢献する下水道技術～	日本下水道事業団 ソリューション事業部次長 阿部千雅様
下水道管渠AI損傷システム による効率化技術	株式会社奥村組 リニューアル技術部工事所支援グループ長 山口治様



写真－1 講演会の様子



写真-2 日本下水道事業団ソリューション事業部次長  
阿部 千雅 様



写真-3 (株)奥村組リニューアル技術部工事所支援グループ長  
山口 治 様

講演会会場は人数を制限したものの、実際には日本全国から80名以上が聴講する大変盛況な講演会となりました。

各テーマともに、活発な質疑対応もなされて非開削技術工法のメリットや今後の労働人口減少によるAI自動化技術への関心の高さが伺えました。

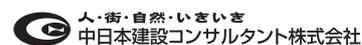
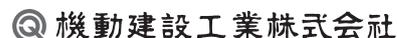
Zoomを使用したオンライン講演会は初めてでしたので、運営上のトラブルもありましたが大変好評でした。

終了後のアンケートからも「Web配信により遠方からも参加できる。もっとこのようなイベントを実施してほしい」とのコメントも寄せられました。

今回のような会場参加とWeb参加の併用方式を「ハイブリッド型イベント」と呼ぶそうです。今後も、JSTTでは、このハイブリッド型イベントをなるべく多く開催していきたいと思います。皆様の健康と安全を徹底したうえで企画いたしますので、ぜひ多くのご参加をお待ちしております。

最後に今回の講演会開催にあたり、新型コロナウイルス対策に伴う準備で、当初計画より厳しい状況になりましたが、おかげさまで13会員企業の協賛を頂き、無事に開催することが出来ました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

## 第27回 非開削技術講演会 協賛企業



掲載申込順